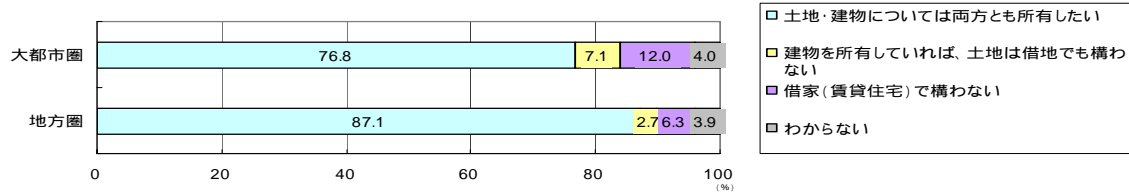


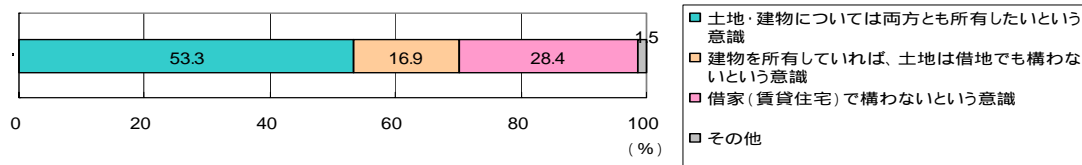
指標：持ち家志向（圏域別）

持ち家志向は、地方圏の方が大都市圏より強いが、将来的には持ち家志向は弱まるものと考えられている。

持ち家志向か借家志向か？



将来（およそ30年後）の住宅所有の意識としてどのような意識が中心となるか？



（出典） 国土交通省土地・水資源局「土地問題に関する国民の意識調査（平成14年1月調査）」

国土交通省土地・水資源局「平成12年度21世紀の土地利用の将来像に関するアンケート調査報告書（平成13年3月）」

（注）のグラフについて 1. 調査対象は、全国20歳以上の者から層化2段無作為抽出法により抽出した3,000人。  
 2. 調査方法は、調査員による面接聴取で、有効回収数（率）2,257人（75.2%）。  
 3. 設問は、「次にご自身が住むための住宅の所有について、どのようにお考えになりますか。この中からあてはまるものを1つだけあげてください。」である。

のグラフについて 1. 調査対象は、大学職員・研究機関等の職員・研究者、アナリスト、上場企業経営企画役職員1,000名。

2. 調査方法は、郵送方式によるアンケート票の配布・回収で、有効回収数（率）409通（40.9%）。

3. 設問は、「国民が望ましいと考える住宅の所有形態としては、現在のところ、以前として持ち家が多くなっています。今後（およそ30年後）、国民の住宅所有に関する意識としては、どれが中心になると考えられますか。最もお考えに近いもの1つをつけてください。」である。